



竹は節目で育つ

前号にて、「皆さんには、何となく卒業のその日を迎えるのではなく、しっかりと受け止めて、高校卒業を良き『人生の節目』にしてほしい」と述べました。

皆さんは入学以来「入学式」「新入生歓迎球技大会」「稔祭」「体育祭（又は合同体育祭）」「修学旅行」などの学校行事、また、「ウクライナ情勢を知る講演会」「キャリアセミナー」「プレゼンテーション発表会」などの学年行事を経験してきました。その他にも、多くの進路行事が学期ごとに盛り込まれていました。こうした行事の一つひとつをこなす中で、皆さんは少しずつ成長してきたわけです。これら全てが皆さんの高校生活の「節目」でありました。

「竹は節目で育つ」ということを以前横芝敬愛高校にいらした先生がおっしゃっていたのですが、本当にそうだと思います。高校生活の中にあった小さな節目節目で成長を重ねてきた皆さんは、いよいよ高校卒業という大きな「人生の節目」を迎えます。

高校卒業は小中学校の卒業と異なります。18歳成人の現在では当然法的にも大人になるわけですが、それ以前から高校を卒業した段階で社会的には大人としての扱いが始まりました。

（成人式こそまだですが）就職し社会人になる人は勿論、専門学校・大学短大に進学する人も大人になる時が近づいています。子供からの卒業です。



実社会で大きく羽ばたいてくれることを願っています。

立つ鳥跡を濁さず②



前号で荷物の持ち帰りの呼びかけを含めて「立つ鳥跡を濁さず」という話をしました。

追加して、来た時よりも美しく、という視点をもって欲しいと思います。教室環境を、皆さんが入る前よりきれいな状況にしておいてください。

後輩たちによい状態で引き継ぐだけでなく、皆さんの卒業の晴れ舞台、その最後を室で過ごしますので、各クラス、少しでも良い状況にしておいてほしいと思います。